

第5節 千葉県の地域特性

1 二次保健医療圏とは

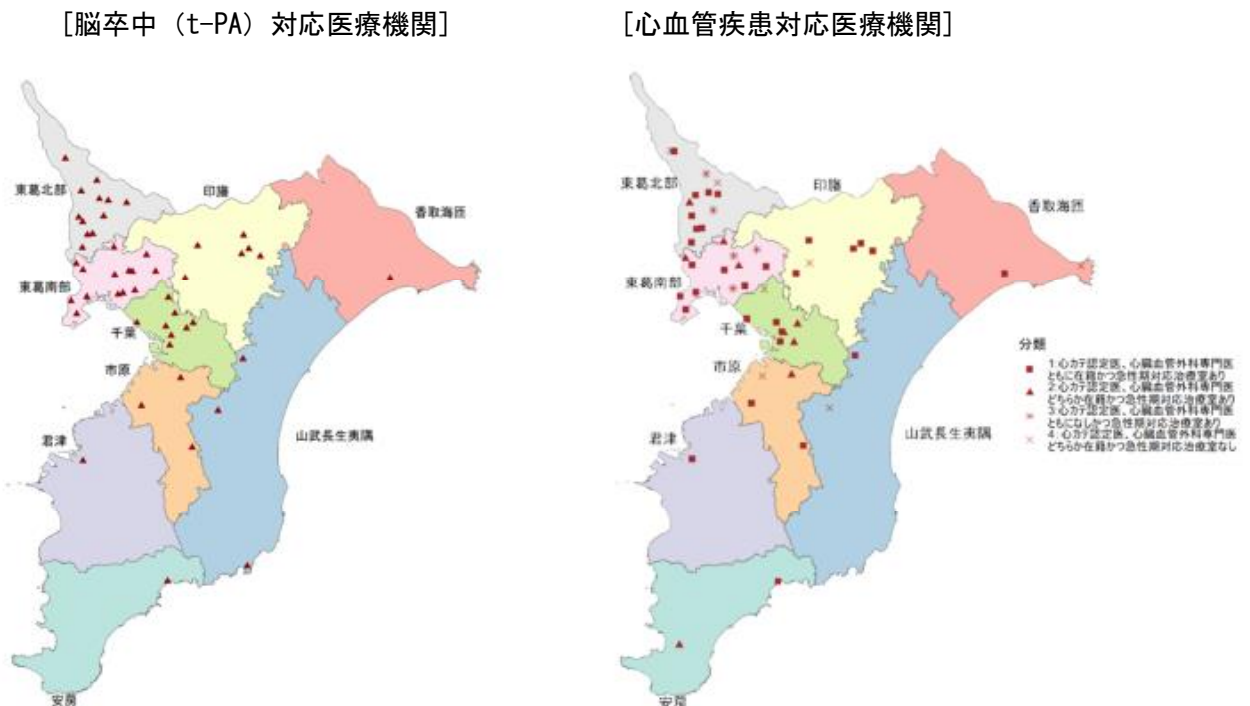
二次保健医療圏とは、医療法第30条の4第2項第12号の規定に基づく区域で特殊な医療を除く病院の病床の整備を図るべき地域的単位として設定するもので、医療機関相互の機能分担に基づく連携による包括的な保健医療サービスを提供していくための圏域です。

設定に当たっては地理的条件及び交通事情等の社会的条件を考慮し、9つの二次保健医療圏を設定しているところです。

2 二次保健医療圏ごとの医療機関の配置

脳卒中及び心血管疾患の救急受入が可能な医療機関の分布は以下のとおりであり、県内の分布には差があります。

表 1-5-2-1 脳卒中及び心血管疾患の救急受入対応医療機関の分布



資料：循環器病対策実態調査

3 二次医療圏ごとの高齢化

千葉県の高齢化の状況は地域ごとに異なっています。既に高齢化が進んでいる地域では高齢化率の推移予測は緩やかに上昇していますが、高齢者数は減少していきます。

一方で、現時点ではあまり高齢化が進んでいない東京に近い地域では高齢化率も高齢者数も増加が見込まれます。

表 1-5-3-1 総人口の推移（圏域別）

（単位：人）

圏域	令和2年 (2020年)	令和12年 (2030年)	令和22年 (2040年)	令和27年 (2045年)	増減数 (2020→ 2040)	増減率 (2020→ 2040)
千葉	974,951	959,376	929,803	913,633	▲45,148	▲4.6%
東葛南部	1,796,572	1,819,466	1,806,921	1,792,347	10,349	0.6%
東葛北部	1,407,697	1,433,623	1,422,591	1,410,459	14,894	1.1%
印旛	718,337	708,044	675,484	656,459	▲42,853	▲6.0%
香取海匝	262,351	225,038	188,693	170,955	▲73,658	▲28.1%
山武長生夷隅	410,235	365,888	318,974	295,322	▲91,261	▲22.2%
安房	120,093	103,054	88,482	81,665	▲31,611	▲26.3%
君津	324,720	313,538	295,558	285,429	▲29,162	▲9.0%
市原	269,524	250,863	229,289	218,144	▲40,235	▲14.9%
県全体	6,284,480	6,178,890	5,955,795	5,824,413	▲328,685	▲5.2%

※令和2年（2020年）は総務省統計局「国勢調査結果（各年10月1日現在）」による。令和12年（2030年）以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和5（2023）年推計）」をもとに作成

表 1-5-3-2 65歳以上の高齢者人口の推移（圏域別）

（単位：人）

圏域	令和2年 (2020年)	令和12年 (2030年)	令和22年 (2040年)	令和27年 (2045年)	増加数 (2020→ 2040)	増加率 (2020→ 2040)
千葉	249,963	274,579	315,500	322,523	65,537	26.2%
東葛南部	408,564	445,398	528,949	551,118	120,385	29.5%
東葛北部	370,784	395,786	447,673	462,942	76,889	20.7%
印旛	203,814	220,532	236,750	238,462	32,936	16.2%
香取海匝	93,431	91,796	85,781	80,567	▲7,650	▲8.2%
山武長生夷隅	147,498	149,557	146,708	140,525	▲790	▲0.5%
安房	50,365	46,781	43,058	40,685	▲7,307	▲14.5%
君津	96,911	100,199	104,359	104,004	7,448	7.7%
市原	78,661	82,338	84,873	83,294	6,212	7.9%
県全体	1,699,991	1,806,966	1,993,651	2,024,120	293,660	17.3%

※令和2年（2020年）は総務省統計局「国勢調査結果（各年10月1日現在）」による。令和12年（2030年）以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和5（2023）年推計）」をもとに作成

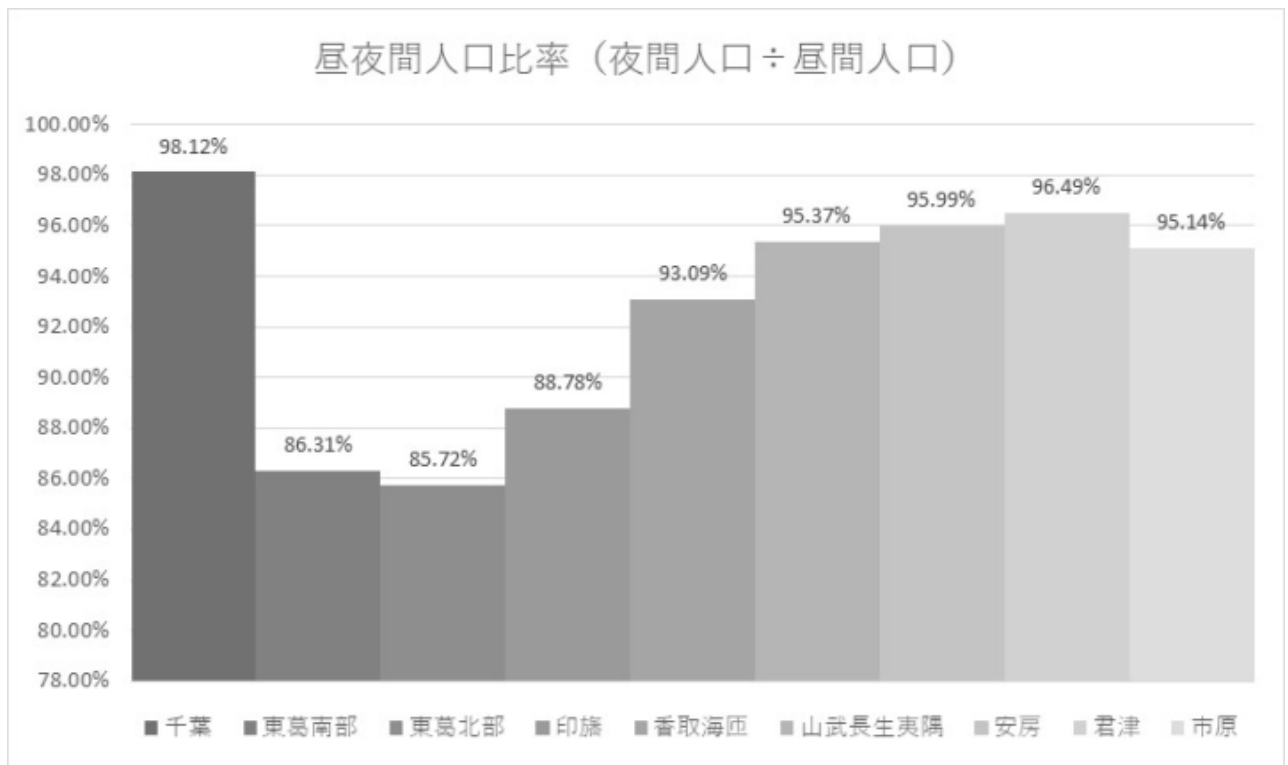
4 昼夜間人口比率

千葉県の昼間人口と夜間人口の差は、地域ごとに異なる特徴があります。

二次保健医療圏毎では、東葛南部・東葛北部では20万人ほどの昼夜の差があります。多くの人が東京都内をはじめとした他の二次保健医療圏に通勤・通学などで移動するため、昼間の人口は少なくなっています。

一方、千葉保健医療圏では、他の地域への流出があるものの、県内の他市町村からの流入もあるため、東葛南部・東葛北部と比べ、昼間人口と夜間人口の差があまり大きくありません。

表 1-5-4-1 昼夜間人口比率



資料：令和2年国勢調査 従業地・通学地集計 従業地・通学地による人口・就業状態等集計

(総務省統計局)